

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	寺村 絵里子 【ジェンダー学際研究専攻 平成22年度生】	要 旨
論文題目	民間企業の女性の就業とキャリア形成に関する実証分析	<p>本論文は女性の特に結婚や出産の際の就業継続離職などの行動に与える職場規範や職場の雰囲気の影響を分析したものである。労働市場における男女格差を説明する理論として、嗜好による差別の理論、統計的差別の理論などがある。最近では自身の社会的なレッテルによって自身のとる行動が自身の効用にも他者の効用にも影響を与えるというアイデンティティ効用の理論が提示されている。この枠組みを用いた男女格差の分析は日本ではまだあまり行われていない。本論文は、第1章ではこのモデルのもと職場規範を取り上げる。第2章は厚生労働省『21世紀成年者縦断調査』の2003-2011年の個票を用いて、育児休業制度だけでなく、その制度が利用しやすい雰囲気があるかどうかで、女性の就業継続意欲とその後数年の出産に影響を与えることを示している。第3章は内閣府『男女の能力発揮とライフプランに対する意識に関する調査』2009をもちいて、結婚や出産を機に職場の雰囲気でやめた、あるいは継続したと述べた者の分析である。第4章は、正社員として勤務した初職を「職場の雰囲気で離職した」20-40歳代の女性22名のうちジェンダー規範にかかわる離職14名に対する聞き取り調査の分析である。職場の組織構造に注目し、子会社企業と出向社員や同族企業内での上司との関係に注目している。第5章は、総務省『就業構造基本統計調査』の1992、1997、2002年の3時点の個票（匿名データ）を用いて、女性事務職の賃金構造とその変化の分析を行っている。賃金が低下傾向にあったと示したが、その中で会計事務は経験により人的資本が蓄積されるとしている。日本女性の就業継続がなかなかすすまないことについて、職場の雰囲気や職場規範の影響を実証的に示している。</p>
審査委員	(主査) 教授 永瀬 伸子	
	准教授 大森 正博	
	准教授 斎藤 悦子	
	教授 石井クンツ昌子	
	法政大学キャリアデザイン学部 教授 武石 恵美子	